

千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第8週 (2/18-2/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	8週	7週	6週	5週
小児科	18	18	17	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	27	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 2/11-2/17 7週
		注意報	2/18-2/24	2/11-2/17	2/4-2/10	1/28-2/3	
			8週	7週	6週	5週	
小児科	RSウイルス感染症	○	7 0.39	2 0.11	5 0.29	2 0.11	24 0.18
	咽頭結膜熱		2 0.11	1 0.06	1 0.06	4 0.22	21 0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46 2.56	38 2.11	68 4.00	56 3.11	329 2.49
	感染性胃腸炎		93 5.17	84 4.67	144 8.47	143 7.94	625 4.73
	水痘		10 0.56	9 0.50	6 0.35	6 0.33	40 0.30
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 0.08
	伝染性紅斑	↓	18 1.00	21 1.17	16 0.94	25 1.39	95 0.72
	突発性発しん		8 0.44	4 0.22	7 0.41	8 0.44	32 0.24
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00
	流行性耳下腺炎		3 0.17	3 0.17	1 0.06	1 0.06	7 0.05
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓↓	203 7.25	298 10.64	808 29.93	1,374 49.07	2,545 12.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	3 0.60	1 0.20	14 0.40
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	90歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	20歳代	IGRA検査等				
結核	男性	70歳代	病原体の検出等	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	女性	80歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
-	-	-	-	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子等の検出

*第8週は、結核4件(21)、レジオネラ症1件(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(2)、百日咳3件(17)、風しん1件(9)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第8週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると多め。

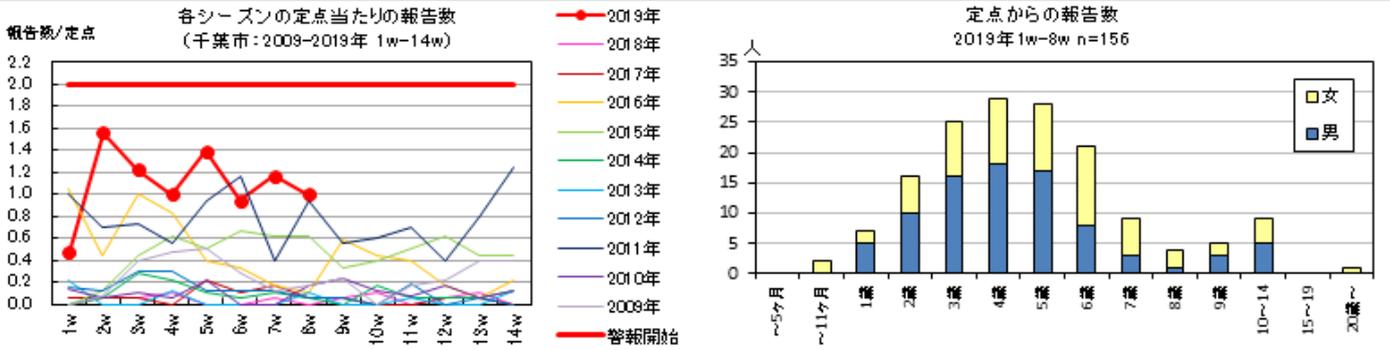
<伝染性紅斑> 前週より減少し1.00となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

<インフルエンザ> 前週より減少し7.25となり、流行発生警報終息基準値を下回った。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

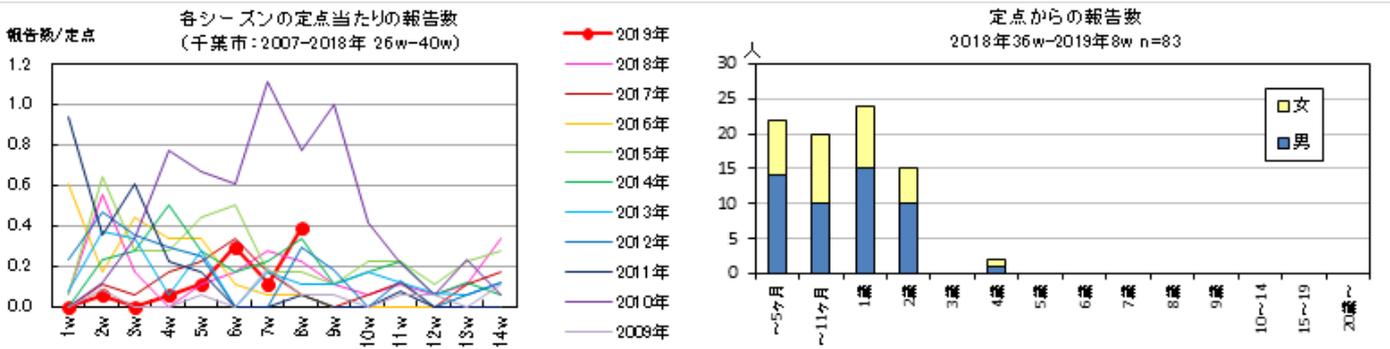
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第7週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となっていますが高い水準で推移しており、第8週は前週より減少し1.00となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第8週までの累積報告数は156件で、性別では男性が55.1%(86名)、女性が44.9%(70名)となっており、年齢階級別では4歳(18.6%:29名)、5歳(17.9%:28名)、3歳(16.0%:25名)の順で多くなっています。



＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第7週は、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、徳島県、和歌山県、熊本県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市では例年の発生動向とは異なり第4週から増加傾向となっており、第8週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、美浜区(1.25/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第8週までの累積報告数は83件で、性別では男性が60.2%(50名)、女性が39.8%(33名)となっており、年齢階級別では1歳(28.9%:24名)、0~5か月(26.5%:22名)、6~11か月(24.1%:20名)の順で多くなっています。



＜風しん＞

全国レベルの第7週の累積報告数は528件で、昨年同時期と比べると10倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されています。千葉市では第5週以降発生届がありませんでしたが、第8週は1件の発生届があり2019年の累積報告数は9件となりました。性別では男性が66.7%(6名)、女性が33.3%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代(55.6%:5名)、40歳代(33.3%:3名)、10歳代(11.1%:1名)の順で多く、30歳代から40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種については、無し又は不明が全体の9割近くを占めています。

